

2026年度 大学院入試（11月期）（児童文学専攻）

博士課程（前期） 「外国語（日本語）」 （2025年11月1日実施）

合否判定の方法 《外国語》《専門科目（児童文学）》《口述試験》

外国語（100点）、専門科目（200点）および口述試験（4段階評価）により評価する。

合否判定の基準 外国語：50点以上、外国語と専門科目の合計得点：180点以上、口述試験：C以上のいずれも満たすこと。

《外国語（日本語）》（100点満点）

出題意図

問一 20点（2点×10問）

漢字を正しく読めるか

問二 10点（5点×2問）

指示語を適切に理解できているか

問三 10点

日本語文の内容を適切に理解できているか

問四 10点

日本語文の内容を適切に理解できているか

問五 50点

日本語表現能力が十分であるか

正答・正答例

問一 1「さいちゅう」あるいは「さなか」 2「ていど」 3「しゅうい」 4「のき」
5「しんきんせい」 6「そざい」 7「くみ」 8「どうせい」 9「ひかく」
10「まんきつ」問二 A／戦争中で、本が少なく、読書をすすめられることもなかった状況
B／作品の中で、子どもたちが人間として自立して生きていること

問三 著作権上の理由により非公表

問四 著作権上の理由により非公表

問五 （意見解答）

長文出典

神宮輝夫『児童文学の中の子ども』NHKブックス 1983/08